

科目名	Advanced Studies in International Relations	授業形態	講義(主)・演習(併用)
日本語科目名	国際関係論特論	開講学期	後期
対象学年	1年次	単位数	2単位
代表教員	藤原 帰一	ナンバリング	POL501
担当教員	藤原 帰一		
授業概要			
全体内容	<p>これまで当然と考えられてきた生活の条件が揺るがされている。水、空気、健康、そして安全と自由、どれもこれまでの世界では疑うことなく享受できるものと考えられてきたが、いまではそうではない。地球温暖化による環境変動は水やエネルギー、そして食糧の供給を揺るがしてしまった。世界各地が直面しているリスクはどれも一国単位では取り組むことのできないグローバルなリスクである。だが、リスクに対応する主体は何よりも各国政府であり、国際協調に基づいた対応は限られたものに過ぎない。それでは私たちはグローバルなリスクに対してどのように取り組むことができるのか。国際政治の視点からリスク対応の未来を考えることがこの講義の課題である。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代世界の直面するさまざまな危機をリスクという観点から考える力を身につけること。 2. リアリズム、リベラリズムなど、国際政治における基本的な概念と理論枠組みを修得し、その概念を米ソ冷戦終結後およそ三十年余りの世界の展開と結びつけて論じる力を身につけること。 3. 地域研究の成果を踏まえ、世界各地の社会から同じ事象がどのように異なって見えるのかを知り、学生自身の認知枠組みを相対化するとともに、多文化と地域文脈性を学習すること。 4. グローバルリスクへの対応に当たってリベラリズムと多国間主義がそれぞれ持つ意義を知ること。 		
授業の位置づけ	<p>専門科目（グローバルコミュニケーション研究領域）、選択科目国際政治・国際関係の導入的講義であるとともに、地域紛争と人道支援、医療と公衆衛生、気象変動とサステナビリティ、市場変動と危機管理を始めとする多様な分野への国際政治から見た切り口を提供することによって他の授業科目との連携を図るものとする。</p>		
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	<p>ディプロマ・ポリシーのうち、「知識と理解 (DP1)」「知識と理解の活用 (DP2)」「判断力 (DP3)」に関連している。</p>		
履修上の注意、履修要件	<ul style="list-style-type: none"> ・提出を求める小レポートをすべて提出し、学期末の筆記試験にも参加していること。3回以上（半数以上）小レポートが未提 		

	<p>出の場合は筆記試験に参加している場合であっても単位を与えない。</p> <p>・この科目の主たる使用言語は英語である。授業中の使用言語を英語とし、提出課題、筆記試験やレポート試験も特段の指示がない限り英語で解答を求める。</p>			
成績評価の方法				
評価方法	計六回の小レポート（それぞれ 1,600 字）（60%）と筆記試験（40%）によって評価を行う。出席については、出欠は取るが、出席点は認めない。			
評価基準	<p>小レポートと最終筆記試験の双方につき、以下の五つ項目に沿って評価を行う。</p> <p>(1) 求められた課題について理解しているか</p> <p>(2) 課題についての基礎的知識を掌握しているか</p> <p>(3) 自分から問いを立てそれに答える試みを行っているか</p> <p>(4) 自分の立てた仮説とは異なる仮説を理解し、説得力を持って反論しているか</p>			
試験・課題等に対するフィードバック方法				
小テスト(課題)について講師からコメントを行う。筆記試験については、フィードバックは準備しないが、成績評価に対する疑問が提起された場合には本学の基準に沿った対応を行う。				
テキスト				
藤原帰一『国際政治』（放送大学教育振興会）と藤原帰一『戦争の条件』を教科書とし、各回のテーマに合わせた論文と事前学習用のビデオ教材を指定する				
参考文献				
藤原帰一ほか編『気候変動は社会を不安定化させるか』・藤原帰一ほか編『平和政策』				
その他				
連絡先・オフィスアワー	<p>連絡先：初回講義で伝える</p> <p>オフィスアワー：初回講義で伝える（週1回1コマをオフィスアワーとし、他にオンライン指導の機会を確保する。）</p>			
担当教員の実務経験	なし（すべて大学教員としての実績）			
備考	学修時間の割当：講義（70%）、演習（30%）			
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法※	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	藤原 帰一	グローバル化するリスク（現代世界におけるグローバル化の進行が新しいリスクをつくり出す過程を考える）	講義と討論	<p>【予習】反転授業。学生は講義映像を事前に視聴した上で参加する（120分）。</p> <p>【復習】講義内容をノートにまとめる（120</p>

				分)。
2	藤原 帰一	国際政治の変動 (国際政治の基本概念・第1回)	講義と討論	【予習】反転授業。学生は講義映像を事前に視聴した上で参加する (120分)。 【復習】講義内容をノートにまとめる (120分)。
3	藤原 帰一	リアリズムとリベラリズム (国際政治の基本概念・第2回)	講義と討論	【予習】反転授業。学生は講義映像を事前に視聴した上で参加する (120分)。 【復習】講義内容をノートにまとめる (120分)。
4	藤原 帰一	国際体制と国際法 (国際政治の基本概念・第3回)	講義と討論	【予習】反転授業。学生は講義映像を事前に視聴した上で参加する (120分)。 【復習】講義内容をノートにまとめる (120分)。
5	藤原 帰一	権力移行問題 (国際政治の基本概念・最終回)	講義と討論	【復習】5回講義に示したアジェンダに基づいた小レポート (1,600字) を作成する (240分)。
6	藤原 帰一	パンデミック	講義	【予習】前回授業にて配布した資料の予習をする (120分)。 【復習】講義内容をノートにまとめる (120分)。
7	藤原 帰一	パンデミック (討論・(新型コロナウイルスに対する各国政府の選択))	事前に示したアジェンダに沿った討論	パンデミックについての小レポート (第7回の討論を反映, 1,600字) を作成する (240分)。
8	藤原 帰一	気象変動	講義	【予習】前回授業にて配布した資料の予習

				をする (120 分)。 【復習】講義内容をノートにまとめる (120 分)。
9	藤原 帰一	気象変動 (討論・地球環境温暖化に対する各国政府の選択)	事前に示したアジェンダに沿った討論	【復習】気象変動についての小レポート (第 9 回の討論を反映, 1,600 字) を作成する (240 分)。
10	藤原 帰一	経済変動	講義	【予習】前回授業にて配布した資料の予習をする (120 分)。 【復習】講義内容をノートにまとめる (120 分)。
11	藤原 帰一	経済変動 (討論・世界金融危機以後の国際経済変動)	事前に示したアジェンダに沿った討論	【復習】経済変動についての小レポート (第 11 回の討論を反映, 1,600 字) を作成する (240 分)。
12	藤原 帰一	地域紛争	講義	【予習】前回授業にて配布した資料の予習をする (120 分)。 【復習】講義内容をノートにまとめる (120 分)。
13	藤原 帰一	地域紛争 (討論・コンゴ戦争とシリア戦争)	事前に示したアジェンダに沿った討論	【復習】地域紛争についての小レポート (第 13 回の討論を反映, 1,600 字) を作成する (240 分)。
14	藤原 帰一	国際機構	講義	【予習】前回授業にて配布した資料の予習をする (120 分)。 【復習】講義内容をノートにまとめる (120 分)。
15	藤原 帰一	国際機構 (討論・国連安保理と国連総会のウクライナ侵攻への対応)	事前に示したアジェンダに沿った討論	【復習】国際機構についての小レポート (第 15 回の討論を反映,

				1,600字)を作成する (240分)。
--	--	--	--	-------------------------

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）